

ISEGB2023 派遣学生 活動報告書

東京工業大学 生命理工学院 生命理工学系
博士後期一年
待井 長敏

私は 2023 年 6 月 29 日から 30 日にかけて行われた国際学会 ISEGB2023 (International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2023) に、遺伝学会からの派遣学生として参加した。本学会ではバイオインフォマティクスの技術を生物の進化解析や人の病態解析を行う研究が数多く見られた。バイオインフォマティクスという共通の解析手法をもって、広い分野から人が集まっていたため、様々な分野の背景や研究の最先端を知ることができた。学会は 1 日目に現地の学生によるポスターセッションとシンポジウムが行われ、2 日目に私の参加した学生口頭発表が行われた。口頭発表は発表時間が 12 分、質疑応答が 3 分間で行われた。3 分間という短い時間ではあったものの、質疑では質問が多く寄せられ、言語の壁を超えて自分の研究が伝わったことが実感できた。また参加学生はアクティブな人も多く、発表後に直接声をかけて質問してくれる学生や、メールアドレスを交換しその後もメールでやり取りをする学生など、活発な意見交換を行うことができた。

またポスターセッションでは普段私が参加する学会ではみられないような研究も多く、新鮮な刺激を得た。例えば、Hi-C や single cell RNA-seq、メタゲノミクスなどの先端技術の様々な側面での解析例を知ることができ、自分の研究への応用可能性を感じた。基本的に会話が全て英語ということもあり、はじめは自分の言いたいことがうまく伝わるか不安があったが、相手の研究背景の理解が進むと図を指し示しながら伝える工夫をすることでさほど言語の壁を感じることなく、活発に議論を交わすことができた。

総じて本学生派遣では、日本で研究しているだけでは得ることができない貴重な体験をすることができ、また国を超えて多くの人と繋がりをつくることが出来た。本体験記を締めくくるにあたり、今回の台湾滞在の機会を与えてくださった日本遺伝学会、並びに ISEGB2023 関係者の皆様に深く御礼申し上げたい。また、現地で案内をしてくださった、Chia-Lang Hsu 先生、Ya-Chih Fan さんには現地の食べ物や現地での過ごし方などを多くのことを教えていただいた。併せて感謝申し上げたい。これらの経験を活かし、これからも自身の研究および自己研鑽に邁進していきたい。



ISEGB 2023 派遣学生 活動報告書

北海道大学大学院情報科学院
情報科学専攻博士後期課程 1 年
CONG YI

2023 年 6 月 29 日から 30 日にかけて台湾で開催された International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics 2023 (ISEGB2023) には、日本遺伝学会の派遣学生として参加させていただきました、北海道大学の CONG YI と申します。

政策上の制約により、私は台湾への渡航ビザを取得することができず、今回はオンラインでの発表となりました。このような状況にもかかわらず、主催者ならびに日本遺伝学会の関係者の方々にはオンライン発表の機会を提供していただき、今回の発表を無事に行うことができたことに心から感謝しております。

私は機械学習を用いたドラッグリポジショニングの新しい予測法に関する研究を発表させていただきました。質疑応答を含め、発表時間は 15 分でした。同じオーラルセッションでは、他にも 5 つの発表が行われ、さらに 26 件のポスターコンペティションが開催されたようです。今回の会議は現地開催を中心に実施されましたが、私は自分の発表時間だけオンライン接続する形式で、このような国際交流の貴重な場でありながら、他の研究者の発表を聴く機会を得られなかったことは非常に残念に思っています。今後も、より多くの学術的な交流の機会を求め、研究活動を続けてまいりたいと考えております。